

ACP(人生会議)に関わって

垂水区・ドマーニ神戸クリニック 宮武 博明 (医師)

尊厳死協会、リビングウィル、安楽死、ACP(advance care planning)など、最期を迎えるにあたっての用語が交錯しております。

平成18年4月からドマーニ神戸(介護付き有料老人ホーム)に併設されたクリニックにて仕事をしております。クリニックの性格から、入居者の方々の介護・看護・医療の関わりを介護職・生活相談員(SW:social worker)・看護職そして私(医者)が同席して面談するようになっていました。

ご本人と家人が原則ですが、身元引受人が司法書士や弁護士の場合もあります。最期を何処で迎えるか、延命治療の希望の有無、緊急時の病院搬送の必要性等々話し合います。原則では1年に1回開かれています。ご本人の認知能力が低下された時、急変されて意思の疎通が困難となった時などはその都度集まっています。

この13年余りに経験した事例を紹介しながら、ACPなるものを考えてみたいと思います。また、「人生会議」という用語がふさわしいかどうかとも問いたいと思います。